

令和3年度
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習事業 報告書



令和3年12月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 尾崎 保夫



戦後70年目の節目の年である平成27年度に、東村山市と連携して立ち上げました「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」も、今年で7年目を迎えました。

令和2年度にあっては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、やむを得ず事業の実施を中止したところではございますが、令和3年度は児童・生徒の広島市への派遣等を取りやめるなど、規模を一部縮小し、「地域の戦争・平和学習事業」として実施しました。

このような状況から、今年度の事業は、実施日を1日のみとし、両市あわせて小学生7人、中学生2人の参加をいただき、「東村山市」、「東大和市」、「武蔵村山市」の3市を訪れました。

東村山ふるさと歴史館では、東京陸軍少年通信兵学校や平和観音など、戦時中の出来事や当時の様子について学びました。

また、今年度は新たに武蔵村山市まで足を延ばし、武蔵村山市立歴史民俗資料館分館にて、展示物等の見学のほか、戦時中の様子について解説を受けました。

そして、東大和市では、都立東大和南公園にある戦災建造物「旧日立航空機株式会社変電所」を見学していただきました。この変電所は、昭和13年、軍需工場内に電気を減圧して送る施設として東大和市（当時の北多摩郡大和村）に建てられたものでありますが、昭和20年に受けた空襲による弾痕を外壁等に残しながらも奇跡的に生き残り、

今もなお戦争の恐ろしさを静かに訴え続けている全国的にも貴重な建造物です。

見学時は、昨年度から開始した変電所の保存・改修工事が終了した直後であり、残念ながら変電所の内部についてはご覧いただくことができませんでしたが、外観・外壁について、じっくり見学していただきました。外壁に残る無数の弾痕を見た参加者たちは、当時の攻撃のすさまじさを直接目で見て、感じ、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて、深く考えていただけたことと思います。

事業開始からこれまで、おかげさまで100人を超える小学生・中学生の皆様へ、本事業にご参加いただきましたが、戦争体験者の声を直接聴ける機会が少なくなった現在、参加者の皆様には、この事業で学んだことを次の世代に伝えていっていただきたいと思っております。

あわせて、戦争の悲惨さ、平和の尊さが語り継がれ、恒久平和が実現することを願っております。東大和市は、平成2年に「平和都市宣言」を行い、旧日立航空機株式会社変電所を中心とした戦争・平和に関する取組を行ってまいりました。

これからも、こうした取組を通じて、平和の大切さを伝えてまいります。

結びに、本事業にご参加いただきました小学生・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に、心から御礼を申し上げます。

令和3年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長
東村山市長 渡部 尚



今から76年前の昭和20年8月に人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、数十万の尊い生命が一瞬にして奪われました。辛うじて生き延びた人々も、被爆による後遺症や深い心の傷に、今なお苦しめられています。

世界で唯一、核兵器による惨禍を体験した私たちは、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、そして平和の大切さを決して忘れることなく後世へ伝えていかななくてはなりません。去る10月24日、核兵器廃絶のために先頭に立って活動されてこられた被団協代表委員の坪井直さんがご逝去されましたが、時を経て、戦争を体験した方、語られる方が少なくなる中、特に次世代を担う若い世代に向けて平和意識を啓発していくことの重要性を強く感じております。あらためて坪井さんのご冥福をお祈りするとともに、微力ながら私も核兵器廃絶と平和のために全力を尽くしていくことをお誓い申し上げます。

さて、東村山市は昭和62年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、「核兵器廃絶と平和展」を毎年開催する他、恒久平和を願う取り組みの一つとして、平成27年度より東大和市と合同で「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施してきました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により広島派遣は実施でき

ませんでした。小・中学生たちは、東村山ふるさと歴史館や東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所、武蔵村山市立歴史民俗資料館分館などを見学し、自分たちの住む身近な地域が戦争の脅威にさらされていたこと、自分たちと同じ世代の子どもたちでさえも、戦争の渦中にあったことを学びました。また、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の映像資料をとおして、原爆の悲惨さを知り、戦争のない平和な社会をつかっていくために何ができるかということをも自分自身の言葉で考えました。

参加した小・中学生たちの学習の成果をまとめたものは「核兵器廃絶と平和展」において展示をしました。小・中学生たちの平和への思いをとおして、展示を観ていただいた多くの方の平和を考えるきっかけになったのではないかと存じます。

この事業を通じ、参加した小・中学生たちがどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧いただき、一緒に平和について考える機会としていただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和3年12月



次

1	実施概要・日程	4
2	参加者名簿	5
3	地域の戦争・平和学習	6
4	参加者感想文	12
5	参加者アンケート	21
6	資料	
	東大和市平和都市宣言	24
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言	25
	ワークシート	26
	見学先一覧	34

1

実施概要・日程

事業の目的

東大和市・東村山市の小学生・中学生が、自分達が住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に伴い、当初予定していた報告会（東村山市平和のつどい、東大和市平和市民のつどい）の実施が中止となったため、一部事業内容を変更しました。

7月29日（木）

地域の戦争・平和学習（東大和市・東村山市・武蔵村山市）

○学習のまとめの展示

8月10日（火）～17日（火）

東大和市「平和祈念・戦争資料展」

8月19日（木）～26日（木）

東村山市「核兵器廃絶と平和展」

地域の戦争・平和学習日程

7月29日（木）

時 間	内 容
午前 8時30分	（東大和市の参加者）東大和市役所 集合
午前 8時40分	（東村山市の参加者）東村山市役所 集合
午前 8時55分	被爆石モニュメント 見学
午前 9時30分	東村山ふるさと歴史館 見学
午前 11時00分	東大和市立郷土博物館にて戦争体験関連映像資料の視聴 ●「沈黙の証言者」 ●「原爆の子 広島の子」
正 午	昼休み
午後 1時20分	武蔵村山市立歴史民俗資料館分館 見学
午後 2時30分	旧日立航空機株式会社変電所 見学
午後 3時30分	学習のまとめ
午後 4時30分	各市役所へ出発 解散



2

参加者名簿

市も学年も混合の9人の児童・生徒の参加がありました。

参加者: 東大和市 3人

東村山市 6人

名 前	学 校	学 年
佐 伯 直 哉 <small>さ えき なお や</small>	東大和市立第五小学校	6年
飯 田 匠 翔 <small>い い た たく と</small>	東大和市立第一小学校	5年
淵 上 眞 妃 <small>ふち がみ ま き</small>	東大和市立第六小学校	5年
田 中 眞 綾 <small>た なか ま あや</small>	東村山市立東村山第五中学校	3年
岩 本 正 弘 <small>いわ もと まさ ひろ</small>	東村山市立東村山第二中学校	1年
鈴 木 康 悌 <small>すず き こう だい</small>	東村山市立化成小学校	6年
鈴 木 優 仁 <small>すず き ゆう じん</small>	東村山市立化成小学校	6年
竜 崎 諒 星 <small>りゅう さき りょう せい</small>	東村山市立東萩山小学校	6年
宮 崎 茜 <small>みや さき あかね</small>	東村山市立秋津東小学校	5年

3

地域の戦争・平和学習

◆ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況の影響により、例年行っていた広島市への派遣は中止となり、「地域の戦争・平和学習」のみ実施しました。

令和3年度「地域の戦争・平和学習」では、東大和市と東村山市だけではなく、近隣の武蔵村山市にまで足を延ばし、各市の施設等を見学することで、自分たちが住んでいる身近な地域にあった戦争の歴史やその被害等について学びました。

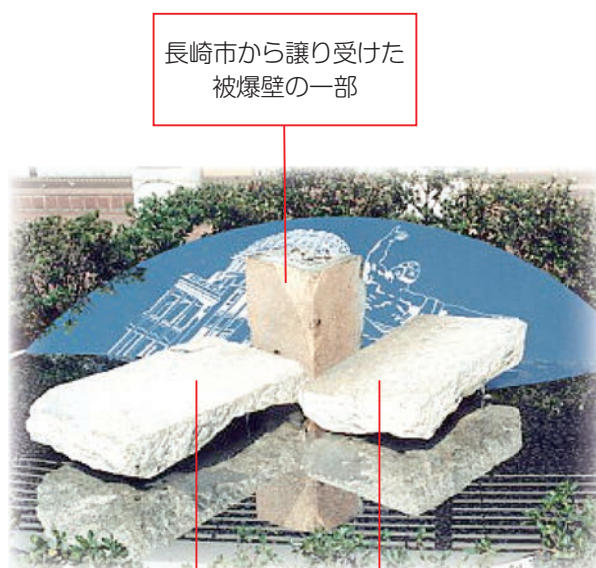
被爆石モニュメント見学

地域の戦争・平和学習は、東村山市立中央図書館前にある「被爆石モニュメント」を見学することから始まりました。

「被爆石モニュメント」とは、昭和20（1945）年8月6日の原爆投下時に被爆した広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、同年8月9日に被爆した長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元（1989）年9月25日に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約620mのところであり、原爆の熱線を浴び、多くの命が奪われた場所です。戦後、原爆の恐ろしさを訴え続ける貴重な建物の一つとして、小学校は保存されてきましたが、昭和63（1988）年、建物の老朽化により解体され、その時に東村山市が譲り受けました。

このモニュメントの説明を聞いた小・中学生たちは、当時の子どもたちの身に起きた悲惨な出来事を学ぶとともに、身近な場所に、原爆の痕跡が残されていることを知りました。



長崎市から譲り受けた
被爆壁の一部

広島市から譲り受けた敷石

東村山ふるさと歴史館見学

〈平和観音〉

次に「東村山ふるさと歴史館」で、東村山市の戦時中の様子や市内にあった戦争関連施設について学びました。

戦時中は、東村山地域にもアメリカ軍のB29が飛来し、照明弾と時限爆弾が投下され、これにより家屋が被災し、死者も出たことを教わりました。そのような中、低空飛行していたB29が南秋津に墜落し、乗組員のアメリカ兵11人全員が死亡しましたが、地元民がアメリカ兵の遺体を埋葬し、戦後昭和35（1960）年に、死者の追悼と平和を祈念して「平和観音」が建立されたことを学びました。

また、墜落したB29の機体部品の一部が「東村山ふるさと歴史館」に展示されています。

平和観音



〈東京陸軍少年通信兵学校〉

次に、戦時中の東村山市内には軍事施設である「東京陸軍少年通信兵学校」があったことを学びました。通信兵学校とは、全国から受験し、約20倍の競争率を突破した15歳から18歳までの少年たちが入校し、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について厳しい訓練を受ける場所でした。卒業生は戦地に赴き、作戦命令や戦況の報告を通信しました。戦地にたどり着く前に、敵からの攻撃を受けて亡くなったかたもたくさんいました。

これら当時の状況を、東村山ふるさと歴史館の職員から聞き、その後展示の見学を通じて、より見識を深めました。

〈学童集団疎開〉

東村山市は学童集団疎開を受け入れていました。説明を聞いて、赤坂国民学校の生徒が正福寺・梅岩寺に疎開し、化成国民学校（現在の東村山市立化成小学校）で学んでいたことを学びました。また、疎開児童の中には親を空襲等で亡くし孤児となった子どももあり、梅岩寺は戦災孤児の学寮として戦後も子どもを受け入れたことを学びました。当時の様子を想像しながら、参加者と同じ年齢の子どもたちが直面した困難に思いをはせました。



- ◆ 戦争を経験した方々の経験談や声を聴くため、2本の映像記録を東大和市立郷土博物館で視聴しました。

戦争体験映像記録DVD視聴

〈東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」〉

東大和市では、戦後70年の節目である平成27（2015）年に、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談や、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録を制作しています。はじめにこの映像記録を視聴しました。

証言された方々の話から当時の様子が目に浮かぶようで、参加者たちは当時の様子を想像しながら、貴重な体験談を視聴しました。

〈国立広島原爆死没者追悼平和祈念館映像資料「原爆の子 広島の子 少年少女のうったえ」〉

昭和20（1945）年8月6日に広島市に投下された原子爆弾による被爆者の方々の体験談をまとめた映像資料です。

映像には、当時、参加者と同じ年代だった被爆者の方々のお話が出てきます。原爆投下直後の広島の様子が、がれきの中、家族を必死に探す様子がありありと語られ、「もし自分だったら」という、より身近な問題として子どもたちの心に訴えかけてきました。



上記の映像は下の二次元コードから視聴することができます。



▲こちらのDVDは東大和市役所社会教育課で貸し出しています。



こちらから「沈黙の証言者ダイジェスト版」をご覧ください。
(※東大和市公式動画チャンネル)



こちらから「原爆の子 広島の子 少年少女のうったえ」をご覧ください。
(※国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の企画展のページから動画を選択してください)

武蔵村山市立歴史民俗資料館分館見学

午後は、東大和市の隣市である武蔵村山市の歴史民俗資料館分館に見学に行きました。

この資料館分館は、戦争に焦点をあてた展示を行っています。ここで、職員のかたから展示の説明を受けながら、戦時中武蔵村山市にあった「東京陸軍少年飛行兵学校」などについて学びました。

〈東京陸軍少年飛行兵学校〉

大正3～7（1914～18）年にあった第一次世界大戦では、戦車や飛行機など新しい兵器が登場したことから、旧日本軍においても飛行機を操縦する「飛行兵」の養成が必要となりました。

昭和8（1933）年、優秀な技術をもった下士官を養成するための「少年兵制度」が設けられ、少年兵を育てるための教育が始まりました。そうして昭和13（1938）年、武蔵村山市に「東京陸軍航空学校」ができました。その後学校は「東京陸軍少年飛行兵学校」と名称を変更しました。

この学校では、小学校を卒業した15歳から17歳の少年が通い、飛行機の操縦や修理のしかたを学び、訓練を行いました。術科や訓練以外にも、野外演習・野営演習・夜間行軍・夏季遊泳演習・実砲射撃・グライダー訓練・大運動会などが行われました。

東村山市の東京陸軍少年通信兵学校に引き続き、武蔵村山市にも軍事関連の学校があったことを参加者は知り、また戦時中は、現代とはまったく違う教育を行っていたことを学びました。



武蔵村山市立歴史民俗資料館分館 外観



旧日立航空機株式会社変電所見学

次に、東大和市の都立東大和南公園内にある旧日立航空機株式会社変電所を見学しました。

変電所は、昭和13（1938）年に、電気を軍需工場へ送るために建てられた施設です。

昭和20（1945）年の2月と4月に、アメリカ軍から1,800発あまりの爆弾による攻撃を受け、工場のほとんどが壊滅した中、変電所だけは残り、戦後も稼働し続けました。

また、この攻撃により、工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など111人が亡くなりました。

学習では、保存・改修工事が終了した変電所の周辺を見学し、壁面に残るおびただしい数の機銃掃射や爆弾の痕を間近で確認しました。また、変電所前に残る給水塔の一部等についても、博物館職員から説明を受けました。

参加者たちは外壁を貫通した攻撃跡を覗いたり、直接触ったりすることで、当時の攻撃の凄まじさを体感しました。



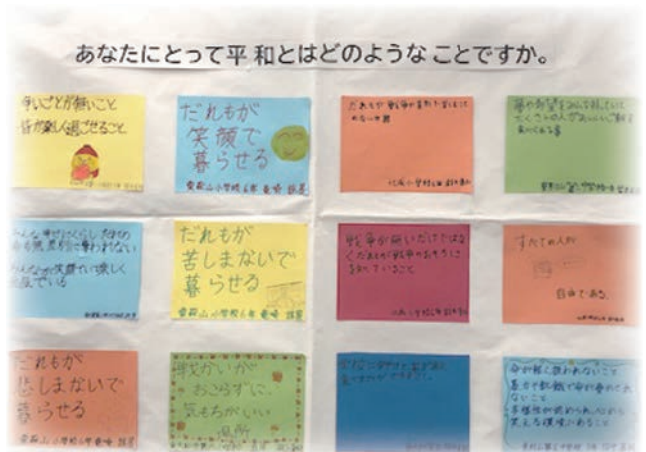
学習のまとめ

すべての施設を見学後、学習のまとめを行いました。

「自分の考える平和とは何か」と「平和のために自分にできること・したいこと」をそれぞれ紙に書きました。記入した紙は、後日模造紙にまとめ、各市で展示を行いました。



東大和市での展示の様子



東村山市での展示の一部

4

参加者感想文

参加した小・中学生たちが、地域の戦争・平和学習事業を通じて、感じたことを自分たちの言葉でつづった文章をそのまま記載しています。

ぼくにとっての平和

佐伯 直哉



ぼくがこの平和学習に参加を希望した一つ目の理由は、歴史が好きだからです。二つ目の理由は、以前に旧日立航空機株式会社変電所に行ったことがあり、平和についてもっと考えたいと思ったからです。三つ目は、まだ見たことのない平和観音を見てみたいと思ったからです。

参加して感じたことは、戦争は、たとえ理由があったとしても、決してしてはいけないということです。なぜなら、戦争は、命を奪い合うからです。ぼくは初めて戦争の映像記録を見ました。その中で、家族を亡くして苦しんだり、悲しい思いをした人がたくさんいたことを知りました。また、空しゅうのサイレンや飛行機の音にひどくこわい思いをいただろうと感じました。見学では、東村山ふるさと歴史館に行けてよかったです。ぼくは歴史が好きなので、土器などの展示物がおもしろかったです。それに、通信兵のことを知ることができました。でも、平和観音は見ることはできなかったので、実際に見に行ってみたいと思います。

ぼくは、見学や学習を通して命の大切さを学び、平和について考えました。ぼくが考える平和とは、周りに家族や友人がいて、大切なものがあり、食べるものもあるということです。家があり、学校

があり、普通の生活ができるということです。あらためて、戦争は絶対にあってはならないと思いました。とてもこわいと思いました。

これからは、ぼくが感じたことを伝えていきたいです。そして、平和のために、何ができるのかを考えていきたいと思います。

戦争について学んだこと

飯田 匠翔



この事業に参加する前は、戦争なんて経験したことがないし、おばあちゃんにも話を聞いていましたが、あまり戦争について興味がありませんでした。しかし、この事業に参加したことで、考え方が変わりました。

最初に行った東村山ふるさと歴史館では、東京陸軍少年通信兵学校のことなどについてたくさん説明していただきました。特に印象に残ったのは、平和観音のことでした。自分たちを襲って来ているのに、その人たちを追悼するということは、自分だったら絶対に出来ないことだと思いました。その後、展示資料を見て驚きました。墜落したB29の部品がありましたが、どこの部分だったのか分からないくらい形が変わっていました。それくらい強い衝撃が加わっていたんだなと思いました。

そのあと、東大和市立郷土博物館に行き、「沈黙の証言者」と「原爆の子」のVTRを見ました。一つ目のVTRを見た時、自分たちが住んでいる所にもB29が来たのかと思いました。二つ目を見た時は、自分たちが住んでいる所に来たのは、原爆より弱い物で被害もあったけど、それだけで助かったんだなと思いました。話の中で『手先か

ら油のようなものが出ていた』と言っていました。恐ろしい兵器だったんだなと思いました。あと、『全身から血が出て、顔が分からないくらい変形していた』と言っていました。顔の形が分からなくなるくらい強い爆発だったのか、強力な風が吹いたのかどっちなのかが分からなかったです。

次に武蔵村山市立歴史民俗資料館分館へ行き、説明を聞き、展示品を見たのですが、日記があり、名前まで書いてありました。本人に渡してあげたいけど、どこにいるか分からないからここにあるのかと思いました。

最後に、旧日立航空機株式会社変電所へ見学に行きました。資料にも書いてありましたが、1,800発あまりの爆弾が落とされたと書いてあり、驚きました。南側から爆撃を受けているということだったので、北側の壁を見てみると、やはり弾の跡はなく、東と西の壁も見ましたが、穴はほとんど開いていませんでした。給水塔も見ましたが、変電所と同じように穴が開いている面と開いていない面があり、貫通している弾もありました。近くにあった建物はほぼ全滅だったと言っていました。111人もの人が命を落とすと書いていて、そこまでして戦争に勝ちたいのかと思いました。

今回、この事業に参加して、戦争とはどのようなことなのか、戦争の中で生活した人のこと、戦争によって奪われたものなどを知ることができて本当によかったです。このことを家族に教えて、戦争のこと、平和のことをみんなで考えたいと思いました。

戦争の苦しさ

淵上 真妃



この平和学習を学ぶ前は、「平和とはみんな仲がいい事」、「戦争は家族や友人を亡くしてつらい事」など2～3個ぐらいしか思いつきませんでした。

この学習でいろいろな場所に見学に行きました。

旧日立航空機株式会社変電所は、飛行機のエンジンなどを作っていました。そのために米軍に狙われ、約1,800発あまりの銃弾が投下されました。そして、工場の人や動員された学生、周辺の住民など、約111人の人が亡くなってしまいました。この事から、戦争は関係ない人まで巻きこんでしまう怖いものだという事が分かりました。また、この建物の壁には、銃弾で撃たれた大きな穴や傷がありました。穴の大きさは大人の指が入るくらい大きかったです。戦争が終わった今でも、旧日立航空機株式会社変電所は戦争の悲しみや苦しさをその建物そのもので、伝えようとしています。

他にも「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」は、旧日立航空機株式会社変電所に勤務していた人達の映像記録でした。この人達は、「銃弾が近づくにつれて空襲の音が大きくなった」や「短い時間でも多くの死者が出た」、「何もかも無くなった」と苦しんでいた事を話していました。ここから、とても短時間で多くの人々が亡くなるほ

どの出来事だったんだなと思いました。

もう一つの映像「原ばくの子 広島の子 少年少女のうた」では、昭和20年8月6日、一発の爆弾により、広島の子が一瞬にして破壊されてしまったことを伝えていました。原爆により、多くの尊い命が無差別に奪われてしまいました。子供の時に体験した戦争やその原爆の悲しさ、平和への思いを伝える映像でした。戦争について話していた人達は、「信じられないほど、驚いた」や「一面が炎に包まれて怖かった」と言っていました。戦争が終わった時には、家族を探している人や、泣いている人もいたと話していました。家族を思い出すたびに、「家族に会いたい」と話していました。また、時には「早く死にたい」という子どもでできたそうです。全身やけどを負っていたり、服はボロボロで「水をくれ。水をくれ。」と言っている人に会うと、地獄に来ているのかと感じたそうです。このような映像から、戦争が終わっても一人一人の当時の体験を聞いて、悲しくなるほど辛かった事が分かりました。

この平和学習で、今は平和に暮らしていても、昔はここが戦いの場となっていたんだなと思うと、とても怖くなります。「どんなに小さな子でも巻きこまれてしまう」という事を聞いてかわいそうだなと思いました。

戦争は、あってはいけないものということが、よく分かりました。戦争の時から、今まで残っている物や建物を大切に、みんなに教えてあげてください。

平和学習に参加して学んだこと

田中 眞綾



3年前の夏、私は「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加しました。実際に広島に行って色々なものを自分の目で見るのはとても良い体験で、行く前と後では自分の考えも変わったと感じます。しかし、気になることがありました。それは、自分たちの住む地域の戦争についてです。広島原爆投下への関心が強かったため、十分に学べなかったと思うからです。なので、いい機会だと思い参加しました。

東村山市に関して印象が強かったのは、東京陸軍少年通信兵学校です。東村山市にあった学校で、モールス通信の送受信や通信機の使い方などを2年間厳しく訓練し、通信兵を育成していました。通信兵といえど、戦禍に巻き込まれ亡くなる人も多くいました。しかし人気は高く、受験の競争率は約20倍もあったそうです。私が衝撃を受けたのは、試験の様子です。機械から聞こえてくる音が短いか長いかで言葉を判断し書き取りを行っているようでしたが、少年達の動くタイミングがほとんど一緒でした。技術が高く驚いたけれど、言ってしまうと少し不気味にも感じました。

東村山ふるさと歴史館の展示資料で目についたのは、爆弾の破片です。所沢や東大和、吉祥寺などにある軍需工場を目標にした空襲の帰りの航空機は、基地まで帰れるように機体を軽くするため、

途中で爆弾を落としていきます。東村山市は航空機のコース上にあつたため、その被害に遭いました。空襲は9回あり、命を落とした方も多くいました。人の命を奪ったであろう物の欠片は、重々しい雰囲気を纏っていました。

東大和市で見たものの中で印象が強かったのは、旧日立航空機株式会社変電所です。この変電所のまわりには軍需工場が建っていて、その軍需工場に電気を送るための施設でした。1945年の2月と4月、3回に渡って爆撃を受け、まわりの工場のほとんどが壊れました。工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など111人の方が亡くなりました。建物には爆撃の跡が残っていて、攻撃の激しさを物語っています。私が驚いた点は、亡くなってしまった方々の死因です。爆撃による怪我や火傷ではなく、爆弾により生じた砂ぼこりが目や鼻から入り窒息死する方が多かったそうです。室内にいても安全な所はなかったと思うと、とても恐ろしいと感じました。

この「地域の戦争・平和学習事業」を通して、私は戦争が決して他人事ではないことを改めて実感しました。今ある小・中学校では戦争中にあった学校の校舎が使われている所があったり、私と同じような年齢の子供たちが兵士になるための厳しい訓練をしていたりと、知らなかっただけで戦争に関わる身近なことはたくさんありました。たくさんの人々を傷つけ、ただの建物を負の遺跡にした恐ろしい兵器は世界中に溢れています。そのことを忘れず、平和な未来は自分達がつくっていくものという意識を持って、後世に伝えていこうと思います。

経験を生かすために

岩本 正弘



私は、一昨年の平和学習・広島派遣に参加させていただき、今回が2度目の参加になります。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で広島派遣や発表会は中止、地域の平和学習のみの活動に制限されてしまいましたが、参加させていただき、また学習の実施に最後まで準備を進めていただいた東大和市、東村山市、両市のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

前回参加したことで、広島・長崎の原爆を伝える朗読のグループから声をかけていただき、朗読発表会に参加する予定でしたが、昨年も今年も発表会は中止になり、経験を生かす場を無くしていました。そんな中で2年ぶりに平和学習が開催される事を知り、特別な経験をさせてもらった感謝の気持ちを少しでも生かしたいと思い参加を決意しました。

当日の朝私は、被爆石モニュメントを見て、黒く焦げてしまった石は原爆の恐ろしさを物語っている様で怖く感じました。同時に広島平和記念資料館で見た衝撃的な物を思い出させるようでした。

武蔵村山市立歴史民俗資料館分館では、初めて知る事がありました。旧日立航空機株式会社変電所や東京陸軍少年通信兵学校以外にも、東京陸軍少年飛行兵学校を初めとする軍事施設が多くあり、そこは攻撃的となり、そこで働いている人々の

命が失われたと思うと悲しい気持ちになります。

旧日立航空機株式会社変電所は何度見ても衝撃です。正面には壁を貫通している穴がたくさん空いており、戦争の生々しさを感じられます。そして何よりすごいのは、平成5年まで稼働していたのです。その時変電所を取り壊すという案が出たそうですが、住民の人たちが反対して戦争の残酷さを伝える場所として今も残り続けています。

今回は1日だけの活動になってしまいとても残念でした。広島でも平和祈念式典への入場が制限されるなど、以前のような活動はまだ出来ないかもかもしれませんが、オンラインで被爆体験を聴くことができるなど広島へ思いを馳せることは可能ですので、これからも平和への勉強を続けていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で行動が制限され、つつい気持ちがふさぎ込んでしまう時がありますが、前回参加した保科さんが東京オリンピックの聖火ランナーに選ばれたことを知り、たくさんの勇気をもらいました。私も少しは見習って、つまづいても立ち上がって地域の平和に役立てるように、毎日を大切に学ぶ姿勢を大切にして行動していきます。大変な状況の中、貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

平和を学ぶ責任

鈴木 康悌



私が平和学習に参加して一番印象に残ったのは「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館映像資料」です。ほんの76年前に、広島で悲惨な目にあった少年・少女の話を聞いて、ひどくショックを受けました。前までは、「広島に原爆が落とされた」という言葉でしか理解していませんでしたが、実際に原爆被害にあった人の話を聞いて原爆の恐ろしさを実感しました。その原爆で亡くなるのも恐ろしいことですが、家族を失うのもさびしくまたつらいことだと思います。これまで私にとって家族がいるのは、あたり前でした。しかし、この映像を見て、家族がいるのはあたり前ではなく、とても幸せなことだと分かりました。

広島に原爆が投下されたのは、昭和20年8月6日のことです。14万人が亡くなったと言われています。広島に投下された原爆は世界で初めて使われた「核兵器」です。その事実、恐ろしさ、悲惨さなどを私たちは学ぶべきだと思います。実際、身近な所に戦争の痕跡がたくさんあります。今回の見学で、そのことが初めて分かりました。このような学習は、平和でないといけません。平和な世の中はあたり前ではないと思います。平和な世の中は、多くの人の犠牲や努力の上に成り立っていることが分かりました。

「旧日立航空機株式会社変電所」の見学で、話

を聞きました。そこで、学生が工場で働いていたことが分かりました。

「武蔵村山市立歴史民俗資料館分館」の見学では、少年兵士になるための学校について、学びました。操縦・通信・整備の基礎を学ぶ学校です。

変電所の周りで働いていた学生や少年飛行兵学校で学ぶ少年兵の気持ちを少し想像してみました。本当に学びたかったのは、他にあったのではないのでしょうか。例えば、私は歴史に興味があります。これからも学びたいと思います。当時の人達も私と同じように、それぞれ興味があることを持っていたのではないのでしょうか。学びたいこともあったのではないのでしょうか。しかし、戦争のための学びや、労働をしなければいけませんでした。自由に学ぶことができなかった当時の人達は「いつになったら自分の好きなことが学べるのだろう」と思っていたのではないのでしょうか。そういう人達と比べて、私は学びたいことが学べて幸せだと感じています。当時の人達の気持ちを知り、もっとくわしく学ばなければいけないと思っています。

今回の学習会が終わり、「平和」の対義語を調べてみました。「暴力」、「戦争」、「混乱」、「混沌」などという言葉が対義語としてでてきました。まだまだ勉強が足りないと思っています。これから先平和について学ぶことが幸せな生活をおくっている私にとって責任なのだと考えています。

地域の人達と学ぶ命と希望

鈴木 優仁



私は、夏休みに地域の平和学習に参加しました。そこで、特に印象に残ったことが3つあります。

1つ目は、旧日立航空機株式会社変電所です。変電所の周りには、軍需工場があったため爆弾が投下されたそうです。私は、変電所の壁に穴が貫通していたことにショックを受けました。大人は、戦争に行ったため、高校生ぐらいの人が働いていた、という話を聞きました。私が今、勉強ができてるのは幸せだなと感じました。当時の人達は、勉強や自分の興味があることに挑戦したかったと思います。

2つ目は、武蔵村山市立歴史民俗資料館分館という所で、東京陸軍少年飛行兵学校の話を知ったことです。そこは、軍事学や飛行機の操縦や修理を学ぶ学校です。14～17歳前後の人達が入校していて、4万6千人が卒業し、その内4,500人が戦争で亡くなったということを知りました。入校していた人達は、軍事学などではなく、国語・算数・理科・社会・英語や図工・音楽・家庭科・道徳など自分の好きな勉強をしたかったと思います。なぜ、強制的に兵隊にならなければいけないのだろうと感じていたのではないのでしょうか。

3つ目は、東村山市の被爆石モニュメントを見ながら聞いたことです。長崎の小学校の校舎の破片を見て、核兵器の威力の恐ろしさを知りました。

そして、原爆の被害にあった子供達について、考えてみました。一瞬で、私と同じぐらいの年の子が、亡くなったと聞くと恐ろしいです。家族・家・学校・友達・希望・命すべてが原爆によって奪われました。なぜ、原爆をおとした国は、核兵器をつくったのだらうと思いました。今も、世界では核兵器を持っている国もあると聞きました。これからは、絶対に核兵器の無い世界になってほしいです。

最後に、この学習会に参加して感じたことです。私が考える平和とは、戦争が無いだけでなく、だれもが戦争の恐ろしさ・悲惨さを知っていることだと思います。私が、平和について学ぶことができているのは、今、日本は戦争をしていないからだだと思います。

今の私にできることは、一つは戦争についてもっと知る事です。また、今も世界では戦争が起こっています。その事についても、もっと知らなければいけません。そのためには、戦争の資料を読んだり、戦争の史跡を巡ったりしたいと思っています。

私は、この学習会に参加して、この地域でも悲惨な戦争があったことを知りました。また地域の人と「協力して学ぶ」という大切さも知りました。これからも、地域の人達と協力し合って平和について考えていこうと思います。

平和な世界を

竜崎 諒星



ぼくは、地域の戦争・平和学習事業に参加しました。みなさんは戦争や平和について、考えたことはありますか。戦争は、人の命をかけて戦っています。それを考えると、複雑な気持ちになります。戦争について、あまり考えたことがなかったので、今回の事業に参加しました。

戦争について学んだことは、たくさんありました。特に、旧日立航空機株式会社変電所が興味深かったです。実際に見ると、はく力がすごく、当時の時代にタイムスリップした気がしました。戦争の怖さが、旧日立航空機株式会社変電所に行くと、とても増えました。

いまの世界は、まだ戦争をしている地域もあるみたいです。人によって戦争の思いは違うと思いますが、みなさんも、どう受け取ればいいのか考えてみてください。

また、東村山ふるさと歴史館に行った時は、実際に使われていた道具を見ることができました。銃の大きさや手帳など、自分では感じたことのない気持ちになりました。

それに、東大和市戦争体験映像記録では、戦争体験者の話が聞けて、当時の状況や思いがとても伝わってきました。身内に戦争体験者がおらず、この機会に聞くチャンスがありました。

東村山市被爆石モニュメントでは、戦争の時の

学校にあったブロックを、生で見ることができました。中には鉄骨が入っているのが分かり、鉄骨がある丈夫な建物でも、大きな被害を受けたことに驚きました。

日本は死亡者の海にあふれ返っていて、どれだけくやしいか、表現できない位悲しいことでした。

このように、地域の戦争・平和学習事業に参加した内容をまとめていきましたが、テレビなどで見る時と、実際に見るのは、まったく違いました。

世界が平和になれば、たくさんのメリットがあると思います。だれもが安心して過ごせる、平和な世界になってほしいと考えます。

平和になるためには、どのような取り組みをしていけばいいのか考えてみようと思います。「命を大切にする」。きっとこんなことをしていれば、いつか世界は平和になっていて、最高の世の中になると思います。

今回は、コロナで行けなかった「広島県」へ行ってみたいです。戦争と平和について考える機会をあたえていただき、本当にありがとうございました。

平和に近づく一歩

宮崎 茜



私は、地域の戦争・平和学習事業で、戦争に関する「被爆石モニュメント」や「平和観音」、「旧日立航空機株式会社変電所」などを見学してきました。

初めに「被爆石モニュメント」を見ました。被爆石モニュメントというのは、爆撃したときに散った石のことです。私が見た被爆石モニュメントは2つあります。1つは長崎県の長崎市立山里小学校の校舎の壁で爆心地から620mのところにありました。長崎県が爆撃されたとき、山里小学校の生徒達は1,500人ぐらいいたそうで、近くに住んで居た人達の1,200人ぐらいが亡くなってしまったそうです。2つ目は、広島県の広島市役所旧庁舎の庭にあったものです。私はこれを知り、一瞬で多くの尊い命が無差別に奪われてしまい、これほど悲しいことはないなと思いました。

次は「平和観音」のことを知りました。「平和観音」というのは、B29に乗っていたアメリカ兵11名を追悼し、平和を祈念するために戦後（昭和35年）に作られたものです。平和観音は東村山市の秋津町にあるので、自分でも見に行きたいです。

最後に「旧日立航空機株式会社変電所」に行きました。「旧日立航空機株式会社変電所」は83

年前に作られました。変電所の周りは軍需工場が建っていました。軍需工場とは戦争に必要なものを作る工場です。変電所は電気を軍需工場へ送るために建てられました。昭和20年（1945）2月と4月、米軍から1,800発あまりの爆弾が投下され、工場のほとんどが壊れました。この攻撃により、工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など111人の人が亡くなってしまったそうです。機関銃で工場の南側を攻撃されたので、南側の壁はボロボロになっていても、反対側の北側はきれいでした。3回の攻撃で多くの人達が命を奪われてしまいました。コンクリートの壁は、大人の人差し指がぴったりはいるぐらい大きな穴が空いていました。そういう穴を見たら、すごい攻撃だったんだなと思いました。壁に機関銃で攻撃されて、銃弾の数は300個ぐらいだそうです。私はこれを知り76年前にこんなことがあったなんて信じられませんでした。今は、日本では戦争は起きていないので76年前のことは想像できませんが、亡くなった人達の気持ちを思うととても悲しくなります。だからこそ、多くの人に、今回学んだ戦争のことを伝えていきたいです。そのために私は、もっと戦争のことを勉強していきたいと思いました。

今回は行けなかった広島にも行きたいです。広島で原爆のことや、経験をした人の気持ちを聞いて、もっと戦争のことを知りたいからです。そして、原爆ドームも見に行きたいです。

私は、これから平和な世界を作っていくために、家族や友達を幸せにして、みんなが笑顔で楽しく、だれの命も無差別に奪われないくらしになるように頑張りたいと思いました。

5

参加者アンケート

アンケートの目的

事業前と事業後で「戦争」や「平和」についての考えがどのように変化したか知るために、また本事業を通して学べたと思うことについて、参加者にアンケート調査を行いました。

アンケートの結果

実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位: 人)

平和を学習したいから	5
地域学習をしたいから	1
親に薦められたから	2
友人に誘われたから	1
その他	

事前のアンケートでは「平和学習をしたい」と積極的に取り組む意欲があるかたが多く見受けられました。

実施前 地域の戦争・平和学習事業で最も興味がある内容は (単位: 人)

東村山市被爆石モニュメント	
東村山ふるさと歴史館	1
旧日立航空機株式会社変電所	3
武蔵村山市立歴史民俗資料館分館	
東大和市戦争体験映像記録	1
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館映像資料	4
その他	

実施前は、よく知られている「広島原爆」や、東大和市にある「旧日立航空機株式会社変電所」について、関心があるようでした。実施後は、大きな変化はありませんが、実際に変電所を見学したことで、変電所への攻撃時の体験談をまとめた「東大和市戦争体験映像記録」を挙げる参加者が増えました。

実施後 地域の戦争・平和学習事業で最も興味深かった内容は (単位: 人)

東村山市被爆石モニュメント	
東村山ふるさと歴史館	1
旧日立航空機株式会社変電所	4
武蔵村山市立歴史民俗資料館分館	
東大和市戦争体験映像記録	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館映像資料	2
その他	

実施前 本事業で学びたいこと、
得たいことは何ですか

(単位: 人)

戦争の歴史やその悲惨さ	8
戦争で失われた命について	7
平和の重要性を感じることに	6
自分の目で見えて感じることの重要性	4
核兵器の恐ろしさ	8
同世代の参加者との交流	2
体験を報告としてまとめる力	2
その他	

※この設問は複数回答可であるため、
合計が参加者数と一致していません。

参加者の多くが「戦争の歴史」や「戦争で失われた命」について知りたい、考えてみたいという目的をもって本事業に申し込んでいただいていることが伺えます。実施後は、各施設等の見学を通して戦争の歴史を学んだことで、「平和の重要性」についてとてもよく学べたと全員が回答しています。

実施後 本事業で学んだことを5段階で評価してください

(単位: 人)

	とてもよく学べた	よく学べた	どちらともいえない	わからなかった	よくわからなかった	
戦争の歴史やその悲惨さ	4	5				9
戦争で失われた命について	7	2				9
平和の重要性を感じることに	9					9
自分の目で見えて感じることの重要性	3	5	1			9
核兵器の恐ろしさ	5	3	1			9
体験を報告としてまとめる力	1	8				9

実施後 上記項目の他に、本事業で学んだこと、得られたものはありますか

- 命の大切さを学べたこと。
- 今は、当たり前前の「平和」だけれど、昔にとってはいいことなんだなと改めて思った。
- 家族がいるのは当たり前ではなく、すごく幸せなことで、もしいなくなったら、また亡くしたらどんなに辛いかということ。
- 地域の人達と団体行動で学ぶこと。

実施後 事業を振り返って、「平和」とは何だと思いましたか

- みんなが幸せに暮らし元気で楽しくいることです。
- まわりに人がいて、食べられるものがあり、普通ができること。
- 戦いもなく、むだな命をなくさないことだと思う。
- 夢を持てること。
- すべての人が自由であること。
- みんなが戦争や核兵器の恐ろしさについて、理解していることが平和だと思います。自分の国だけではなく、他の国も尊重することが大切だと思います。
- 命が軽く扱われないこと。
- 暴力や飢餓で命が脅かされないこと。
- 多様性が認められ心から笑える環境にあること。

参加者の平和に対するイメージが具体的に出ています。実際に戦争の歴史を学ぶことで、昔と今の違いを明確に感じ、こうした意見が出ていることが伺えます。

実施後 事業全体の内容について5段階で評価してください

とても満足する内容だった	5
満足する内容だった	4
どちらともいえない	
不満がある内容だった	
非常に不満がある内容だった	

上記でつけた評価の理由を教えてください

- 楽しくて色々学べてうれしかったです。
- 戦争はあってはならないと思った。
- 昔のことを知りたかったから、またどんなことが平和なのかも知りたかったのがよかった。
- 内容が難しすぎなくてよかった。
- 地域の戦争について知らなかったこともあったので、もっと詳しく知ろうと思いました。また機会があったら参加したいです。
- 以前参加したときよりも戦時中の地域の様子について詳しく知ることができてよかった。戦争の恐ろしさや平和の尊さがより感じられた。
- 戦争について学べた。「命を大切にする」ということを改めて思いました。



※写真撮影のため、一時的にマスクを外しています。

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

東村山市

核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都 東村山市



東大和市・東村山市



地域の戦争・平和学習ワークシート

主催：東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

学習日

令和3年7月29日（木）

名前

ねらい

- 戦争中、自分たちが住んでいる身近な地域の様子はどうだったのか学びましょう。
- なぜ戦争をしてはいけないのか、平和とはどんなことなのか考えましょう。

このワークシートの使い方

- 見学して知ったことや、感じたこと、考えたことをまとめるために使いましょう。
 - 今日学んだことを模造紙にまとめ、各市で展示します。
- まとめのときに、このワークシートを使いましょう（展示の詳細については8ページ）

今日の予定

- | | | |
|---------|------------------|----|
| 午前8時30分 | （東大和市の参加者）東大和市役所 | 集合 |
| 午前8時40分 | （東村山市の参加者）東村山市役所 | 集合 |
| 午前8時55分 | 被爆石モニュメント | 見学 |
| 午前9時30分 | 東村山ふるさと歴史館 | 見学 |
| 午後0時 | 東大和市立郷土博物館 | 着 |
| | 昼休み | |
| 午後1時20分 | 武蔵村山市立民俗資料館分館 | 見学 |
| 午後2時00分 | 旧日立航空機株式会社変電所 | 見学 |
| 午後2時40分 | 戦争体験関連映像資料の視聴 | |
| 午後3時25分 | グループワーク | |
| 午後4時30分 | 各市役所へ出発 | 解散 |



新型コロナウイルス等の対策のため、以下のことを守ってください

- マスクの着用・手洗いうがい・手指の消毒を行いましょう。
- こまめに水分をとりましよう。
- 体調が少しでも悪い時はすぐに職員に声をかけてください。

東村山市 ^{ひばくせき}被爆石モニュメント

東村山市立中央図書館の前にあります。
平成元年9月25日に、この場所に設置されました。

長崎県の長崎市立（ ）
の校舎の壁。
爆心地から（ ）mのと
ころにありました。



広島県の（ ）
旧庁舎の庭にあった敷石。

学んだこと・感じたことを自由にかいてみよう

東村山ふるさと歴史館

【下の（ ）にことばを入れましょう。】

平和観音

平和観音は東村山市の（ ）町にあります。
（ ）が墜落した場所です。乗っていたアメリカ兵11名を追悼し、平和を祈念するため
に戦後（昭和35年）に作られました。



東京陸軍少年通信兵学校

全国から受験（約20倍の競争率）し、合格した（ ）歳前後の少年たちが、
（ ）の送受信や通信機の使い方などの、厳しい訓練を2年間受けていました。彼
らは戦地に行き、作戦命令や報告を通信しました。戦地にたどり着く前に、敵からの攻撃を受け
て亡くなった少年もたくさんいました。（東村山で終戦をむかえた少年もいました。）

てんじ
展示資料の見学について

このようなことをメモしてみよう

(例)

- 印象に残った展示、資料はどのようなものか
- どうして印象に残ったのか、その理由 など

東村山ふるさと歴史館で
学んだこと・感じたことを自由にかいてみよう

このようなことをメモしてみよう

(例)

- 自分が当時生きていたら、どのような気持ちになっただろうか
- 疑問に思ったこと など

武蔵村山市立歴史民俗資料館 分館

東京陸軍少年飛行兵学校

第二次世界大戦では、戦車や飛行機など、新しい兵器が作られました。特に、飛行機を操縦する「飛行兵」が必要とされました。

昭和8年（1933年）、「少年兵制度」が始まり、少年兵を育てる教育が始まりました。

昭和13年（1938年）、武蔵村山市に「東京陸軍航空学校」ができました。そのあと、「東京陸軍少年飛行兵学校」と名前が変わりました。

この学校では、小学校を卒業した15歳から17歳の少年が通い、飛行機の操縦や修理のしかたを学びました。戦争が終わると、学校はなくなり、学校があった土地は、農家に売られました。今は、都営住宅村山団地になっています。

見学について

このようなことをメモしてみよう

（例）

- ・印象に残った展示、資料はどのようなものか
- ・どうして印象に残ったのか、その理由 など

武蔵村山市立歴史民俗資料館 分館で

学んだこと・感じたことを自由にかいてみよう

このようなことをメモしてみよう

（例）

- ・自分が当時生きていたら、どのような気持ちになっただろうか
- ・疑問に思ったこと など

きゅうひたちこうくうきかぶしきがいしゃへんでんじょ

旧 日立航空機株式会社変電所

この変電所のまわりは、^{ぐんじゆこうじょう}軍需工場が建っていました。

変電所は、昭和13年（1938年）に、電気を軍需工場へ送るために建てられました。

昭和20年（1945）2月と4月、米軍から1,800発あまりの爆弾が投下され、工場のほとんどが壊れました。この攻撃により、工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など111人の人が亡くなりました。



このようなことをメモしてみよう

（例）

- ・説明を受けて、新たに知ったこと など

見学について

このようなことをメモしてみよう

（例）

- ・変電所を最初に見て思ったこと。
- ・見学した前と後で、何か考えが変わったこと

など

旧日立航空機株式会社変電所で学んだこと・
感じたことを自由にかいてみよう

東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」

【() にことばを入れましょう。】

旧日立航空機株式会社変電所に勤務していた方々の()を
まとめた映像記録。

平成27年、戦後70年に、東大和市中で制作したもの。

DVDは東大和市の図書館や社会教育課で借りることができます。



映像を見て、考えたこと・思ったこと・感じたことを自由にかいてみよう

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館映像資料「原爆の子 広島の少年少女のうったえ」

昭和20年8月6日 一発の原子爆弾により広島は一瞬にして破壊され、多くの尊い命が無差別に奪われました。

子どもたちが体験した戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えます。

世羅恵さん(被爆当時 中学2年生)、升岡直子さん(被爆当時 中学2年生)、武内健二さん(被爆当時 小学校6年生)のお話を聞いてみましょう。

映像を見て、考えたこと・思ったこと・感じたことを自由にかいてみよう

今日のまとめ

○あなたにとって平和とはどのようなことですか。考えてみましょう。

○平和のために自分にできること・したいことはどのようなことですか。



【穴うめ部分の答え】

p2 ^{ひばくせき}被爆石モニュメント

^{やまざと}山里小学校、620、広島市役所

p2 東村山ふるさと歴史館

○平和観音：秋津、B29

p6 東大和市戦争体験映像記録

○東京陸軍少年通信兵学校：14、モールス信号

戦争体験談

「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」

本事業の「学習のまとめ」を以下の場所で^{てんじ}展示します

東大和市 『平和祈念・戦争資料展』^{きねん}

- 開催日 8月10日(火)～8月20日(金) ※学習のまとめの^{てんじ}展示は8月17日(火)まで
午前8時30分から午後5時15分
(初日は午前10時から、最終日は午後3時まで)
- 会場 東大和市役所 1階入口ホール
- 展示内容 旧日立航空機株式会社変電所に関する資料、広島、長崎の^{げんぼく}原爆
関連の^{てんじ}パネルを展示します。



東村山市 『核兵器^{はいぜつ}廃絶と平和展』

- 開催日 8月19日(木)～8月26日(木)
午前9時から午後5時 (月曜日休館・最終日は午後4時終了)
- 会場 東村山市立中央公民館1階 ^{てんじ}展示室
- 展示内容 広島、長崎に^{とうか}投下された^{げんぼく}原爆について説明しているパネル資料や、
高校生が^{ひばく}被爆体験証言者の^か語りを聞いて描いた絵、戦時中の実物資
料等を^{てんじ}展示します。



見学先一覧

● 被爆石モニュメント

所在地 東村山市本町 1-1-10
東村山市立中央図書館前



● 東村山ふるさと歴史館

所在地 東村山市諏訪町 1-6-3
電話 042-396-3800



二次元コードから東村山市公式ホームページ「東村山ふるさと歴史館」ページへアクセスできます。

● 東大和市立郷土博物館

所在地 東大和市奈良橋 1-260-2
電話 042-567-4800



二次元コードから東大和市公式ホームページ「東大和市立郷土博物館」ページへアクセスできます。

● 旧日立航空機株式会社変電所

所在地 東大和市桜が丘 2丁目
(都立東大和南公園内)



二次元コードから東大和市公式ホームページ「旧日立航空機株式会社変電所」ページへアクセスできます。

● 武蔵村山市立歴史民俗資料館分館

所在地 武蔵村山市大南 3-5-7
電話 042-566-3977



二次元コードから武蔵村山市公式ホームページ「歴史民俗資料館分館」ページへアクセスできます。

**令和3年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習事業 報告書**

令和3年12月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市社会教育部社会教育課

東京都東大和市中央3-930

電話 042-563-2111 (内線1552)

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町1-2-3

電話 042-393-5111 (内線2558)

